



私の3冊

岩根達郎

後輩に薦める2冊

岡江 晃（著）

統合失調症の責任能力なぜ罪が軽くなるのか dZERO, 2013 年発行

私が司法精神科医療を教わった、恩師である故 岡江晃先生の一冊です。医療観察法をはじめとする司法精神科医療に携わる方にはこの本をお薦めします。答えというよりは、刑法 39 条や責任能力、精神鑑定の課題などについて、どのように考えていくべきか、考えを深める機会を与えてくれるでしょう。

増川ねてる、藤田茂治（編著）

WRAP[®] を始める！—精神科看護師との WRAP[®] 入門 [リカバリーのキーコンセプトと元気に役立つ道具箱編] 精神看護出版, 2016 年

WRAP[®] (Wellness Recovery Action Plan) は「良い感じ」で生きていくための仕組みです。精神科リハビリテーションでも実施されているところが増えています。副題には精神科看護師とありますが、看護師であるかそうでないかは、まったく関係のないものです。WRAP[®] に興味のある方ならどなたでもどうぞ。大事なものは何なのか、自分はどうかありたいのか、WRAP はそれを見つける手助けもしてくれます。

自分の1冊

岩崎武雄（著）

哲学のすすめ 講談社現代新書, 1966 年発行

自己紹介にも書かせていただきました通り、私は本を読むことが苦手です。一方で、学びを深めるということには大変興味があります。そのなかで「哲学」という言葉に出会いました。まだまだこれから私の中で深めていくものであると思いますが、この本とともに深めていきたいと思っています。

■ いわね・たつろう 作業療法士 19 年目 京都府立洛南病院リハビリテーションセンター

精神科病院でリハビリテーションに携わっています。幼少期から本を読むことは苦手で、小学生時代の読書感想文はもっぱら図説の多い「プロ野球入門」でした。養成校時代も苦手で、友人から教科書の内容を教えてもらっていました。近年、ようやく興味のあるものは読めるようになり、少しずつ読んで学ぶことの楽しさを味わっています。